

# マンモ車検診&乳がん触診体験 女性がん検診啓発キャンペーンのご報告

4月19日（日）、素晴らしいお天気に恵まれた立川市にある昭和記念公園で開かれた「東京TAMA音楽祭&いのちのリレー」の会場で、ブーゲンビリアはマンモ車検診と乳がん触診体験、乳がん・子宮頸がん検診の啓発キャンペーンを行いました。

東京都は乳がん死亡率が全国最悪なのに、検診率は平均を大きく下回っています。その中でもブーゲンビリアが本拠を置く立川市は都全体の平均以下なのです。

東京都のがん対策推進協議会に参加して、検診率の向上を考えるうち、やはり人の集まるところにマンモ車を呼ぶのが効果的との考えにいたり、昨年は立川市女性総合センターアームで行われた「くらしフェスタ立川」の会場に（89名実施）、今年は「東京TAMA音楽祭&命のリレー」の会場に150名の予定でマンモ車検診を呼びかけました。

2回とも募集定員の1.5倍以上の方が応募してくださり、先着順での受付のため、多くの方にお断りしなくてはなりません。はずれてしまった方、申しわけありません。

ちょっと場所がわかりづらかったり、公園が広すぎたりと不便な部分も有ったかと思いますが、やはりイベントとの同時開催は家族や子どもさんと一緒に来場できるという点がメリットだったようで、普段の検診ではなかなか受診率の上がない若い世代が多く受診してくれました。また、チューリップやアイスランドポピーが花盛りで、お花見がてらという方も多くいらっしゃいました。

人数が多かったので、お待たせしてしまった方も出てしまいましたが、待ち時間に行った乳がんのミニレクチャーも好評で「乳がんが怖くなくなった」「また来年も受診したい」というお声も多く頂きました。受診は初めてという方も多く、こういった機会が定期的な受診に繋がり、早期発見に役立つと良いと思っています。

マンモ車とは別に、みんなの原っぱにはブーゲンビリアのブースを出し、乳房触診モデルによる自己検診の体験と、乳がん・子宮頸がん検診の呼びかけを行いました。

このところ乳がんや特に子宮頸がんが若年化していて、20代30代での増加が著しいため、何とかして若いお母さんの足をこちらに向かせたいと思っていました。例年、どんなにお声掛けしてもすう〜と離れて行ってしまったので、今年はバルーンアーティストの石井颯さんにご協力をお願いし、乳がんのピンクと子宮頸がんのティール&ホワイト＝鮮やかな緑と白の風船でブースを飾ってもらいました。午後になって、風船でプードルや刀やバトンなどを作って配り出すと、小さな子供達がワッと押し寄せ、ねらい通りに大勢のお母さん方を啓発することができました。

ブースにはブーゲンビリアの顧問でもある井上裕子医師が来てくださり、触診のご指導や気になる症状へのアドバイスをしてくださいました。また、井上医師の主催されているNPO法人マザーシップが制作した、キルトによる大きなピンクリボンのタペストリーを飾ってくださり、会場は一層華やかになりました。

一人ひとりのお名前や願い事を書き込んだ小さな布から作り上げられたキルトは、優しいながらも力強く、乳がん撲滅の願いを語っているようでした。

## ♪マンモ受診者アンケートの結果から

今回マンモグラフィ検診に参加された皆様には、受診率向上のためのアンケートをお願いし、93名の方からご回答を頂きました。ご協力ありがとうございました。

年齢構成では多くの自治体で検診を受けられない40歳以下の方が38%を占め、そのうちの21名が受診の理由を「**検診が必要な年齢になったと思ったから**」と答えていました。その34名のうち28名は今まで受診経験がなく、うち12名がその理由に「**検診費用が高そうだから**」を挙げていました。受けたいと思っても自治体の検診はなく、自主的な検診ではお金がかかるといふ実態が見え隠れしています。

乳がんの好発年齢である46～50才の受診はわずかに7名と少なく、この世代の受診率をどう上げていくかが今後の課題になりそうです。

立川市からの参加が最も多く、小平市、八王子市と続きますが、広く多摩地区全体に分布していました。中には、神奈川県や埼玉県の方もいらっしゃいました。比較的遠くからの方の受診のポイントは「**休日に受診できるから**」「**家族や友人と一緒に来られる場所だから**」「**イベントに付随していたから**」が目立ちました。

参加したポイントを複数回答で尋ねたところ、「**検診料が安かったから**」が63名と一番多く、次に「**検診が必要な年齢になったと思ったから**」が39名、「**家族や友人と一緒に来られる場所だから**」が35名でした。これにはおばあちゃん世代の方も多く、親子で受診できるというのはメリットかもしれません。特に住んでいるところが離れている場合には、良いきっかけになりそうです。

続いて「**家族や知人に乳がんの人がいたから**」が18名。体験者の人の呼びかけが大きな力になりそうです。自分の乳がん体験を隠さないで、お友だちの受診につなげる、そして、お友だちが早期発見できたら素晴らしいことではありませんか？

「**自治体の検診は2年に1度なので**」という方が15名、その他の理由の中には「**自治体の検診はいつも満員なので**」というのもありました。希望者が全員受けられるシステム作りが望まれます。

気になったのは「胸のシヨリ・違和感が気になったから」という方が10名いらっしゃったことです。気になる症状がある場合には、検診ではなく専門の病院で「検査」を受けるようにしましょう。異常があった場合には再検査となり、費用も時間も無駄になってしまいます。

マンモ車が来たら受診したいと思える場所は？と訪ねたところ、「家の近くの公共施設」が84名とダントツで、仕事のあるなしにかかわらず自宅の近所や「買い物に便利なところ」（35名）を選ぶ傾向がありました。

「自分の職場」「職場の近く」を選んだ方は現在仕事を持っている方の半数でした。

全体で「一度も検診を受けたことがない」方は45名。30代が多いので、驚く数字ではないでしょう。気になるのは受診機会がありながら受けなかった理由に「何となく時期を逃したから」という方が24名いらしたことです。

この「なんとなく」な方たちに受診機会を作っていくことが大切だと思います。

自由記述では「痛かった」というのが多くありましたが、「全然痛くなかった」という方もけっこうおられて、個人差が大きいと感じました。

「手軽に受けられて良かった」「公園という場所が良かった」「ぜひまた受けてたい」「友人にも勧めたい」という嬉しい御意見もいただきました。

こういった大きな活動ができますのも、個人や企業の皆さまからのご支援のおかげです。今後とも、ブーゲンビリアの活動にご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。